



▲出雲大社社務所前で集合写真

加西市と出雲市は、日本に5つしか現存しない「風土記」ゆかりの地です。

「風土記」が結んでくれた縁により、加西市と出雲市の交流事業が始まりました。その一環で、両市の観光協会の交流を深めるため、播磨国風土記講座でお世話になっている光田和伸先生に講師をしていただき、出雲市で記念講演を行いました。また、60年ぶりとなる出雲大社御遷宮完遂記念イベント「出雲フェスティバル」に、加西市子ども狂言塾が出演し新作狂言「根日女」などを奉納しました。

～出雲大社御遷宮完遂記念イベント「出雲フェスティバル」に出演～

まず、出雲大社本殿へ公式参拝を行いました。西村市長と民輪正秀さん（子ども狂言塾代表）を先頭に参加者約100名が、本殿八足門の中に入り舞台出演などの報告をしました。

舞台本番は急激に気温が下がり小雨が降る中、雨具を着た観覧者300名の前での出演となりました。冒頭の市長あいさつが始まると、それまで降っていた小雨がやみ、雲の切れ間から日が差し込んできました。西村市長からこれまで取り組んできた播磨国風土記事業の説明を行い、「風土記が結んでくれた縁を大切に、今後加西市と出雲市の交流を推進していきたい」と結びました。



新作狂言「根日女」を熱演する塾生たち

出演では、まず子ども狂言塾1期生の島田凜菜さんより加西市のPRと子ども狂言塾の説明を行いました。その後、狂言「口真似」の説明を3期生の梅田楓花さんが行い、同じく3期生の杉本倫都さん・富士松樹さん・千石麻生さんが上演しました。最後に、1期生から5期生の塾生26名で新作狂言「根日女」を披露しました。昨年10月からお稽古を積んできた成果を見事に発揮し、観覧者より盛大な拍手をいただきました。

3月13日、加西市は体育およびスポーツの高揚と振興に寄与し、市を代表して全国大会等に出場する選手に対して、日々の努力に敬意を表し、大会等での活躍等を祈願して賞賜金の贈呈を行いました。

金志 達也さん（北条町古坂）

金志さんは「兵庫マスタース陸上」5,000mにおいて17分19秒72の記録で3位入賞し、兵庫県代表に選出されました。県代表として出場された「第31回都道府県対抗全日本マスタース駅伝競走大会」では、見事準優勝されました。



左から西村市長、住田さん、蔦川さん、金志さん

蔦川 真優さん（広原町）

サンスポーツクラブ加西に所属する蔦川さんは「第41回兵庫県JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会」の女子13・14歳200m背泳ぎに出場されました。本大会の参加標準記録2分19秒26を上回る2分18秒39の記録で準優勝し、全国大会の出場権を獲得されました。

住田 乙姫さん（北条町北条）

サンスポーツクラブ加西に所属する住田さんは「第41回兵庫県JOCジュニアオリンピックカップ春季水泳競技大会」の女子10歳以下50mバタフライに出場されました。本大会の参加標準記録33秒48を上回る32秒77の記録で3位入賞し、全国大会の出場権を獲得されました。

後期高齢者医療保険料の軽減割合が変更

問合せ先／国保医療課 ☎42-8721
県後期高齢者医療広域連合 ☎078-326-2021

これまで9割軽減となっていた方は、平成31年度8割軽減に変わります。

後期高齢者医療制度発足時の激変緩和措置として、国の予算措置により実施されてきた保険料軽減特例措置について、制度の持続性を高めるため、世代間・世代内の負担の公平を図り、負担能力に応じた負担を求める観点から、平成29年度から段階的に所得割軽減および元被扶養者の均等割軽減が見直されてきました。

据え置かれていた所得の低い被保険者に対する均等割軽減（本則7割、特例により9割または8.5割軽減）については、年金生活者支援給付金や介護保険料の軽減拡充の開始に併せて、平成31年度から軽減割合が見直されます

対象者の所得要件 (世帯主および世帯の被保険者全員の軽減判定所得の合計額)	均等割の軽減割合(年額)		
	本則	30年度	31年度
33万円以下※注1		8.5割(7,328円)	
うち、世帯の被保険者全員の各種所得なし(公的年金等控除額は80万円として計算する)※注2	7割(14,656円)	9割(4,885円)	8割(9,771円)

※注1に該当する方は、年金生活者支援給付金の支給対象とならないこと等を踏まえ、平成31年度に限り8.5割軽減を据え置かれます。

※注2に該当する方で、世帯全員が非課税の場合などは、年金生活者支援給付金の支給や介護保険料の軽減強化といった支援策の対象となります。